



発行所 三重県立美術館新聞社
〒514-0007 津市大谷町11番地
TEL (059)227-2100 (大代表)



きょうの展示(てんじ)
▼ 異国にて・画家のまなざし
▼ 身辺の発見・日常の冒険
▼ 空想・憧憬
▼ 未知の世界へ

- 1室
- 2室
- 3室
- 4室十県民ギャラリー



見てないのに描いてもええの？

「うそつきはドロボウのはじまりとちがう」

(うさぎ) ひとつめの部屋(へや)は外国(がいこく)行(い)って描(か)いた絵(え)、ふたつめの部屋(へや)は近(ちか)くで描(か)いた絵(え)。そやで、たぶん3つめのこの部屋(へや)はちよつとだけ遠(とほ)くで描(か)いた絵(え)やろな。蒲郡(がまごおり)とか浜名湖(はまなこ)とか。

(きつね) ちがうわ。なんでそんな中途半端(ちゆうはんぱん)なテーマ(ちま)につきあわなあかんのさ。それに地名(ちめい)も、かたよりすぎ！ こんどの部屋(へや)は、もう一歩(いっぽ)すすんで「見てないのに描(か)いた」と絵(え)の部屋(へや)って聞(き)いたわ。

(うさぎ) 見てないってことは、その絵(え)は「うそつきの絵(え)」と考(かんが)えてよろしいわけですね、きつねさん。

(きつね) そうなんかなあ。ちがうわ！ そしたらこの部屋(へや)みんなうそつきだらけになってしまいうやんか。最初(さいしょ)に言(い)...

古賀春江(こがはるえ)「煙火(えんか)」
1927年(ねん)



(うさぎ) こんな話(はなし)はじめて言(い)うたわ！ さあ、「百聞(ひやくぶん)は一見(いっけん)にしかず」や。極上(ごくじょう)の作品鑑賞(さくひんかんしょう)にレッツ・いこー。

(きつね) そんな話(はなし)はじめて聞(き)いたわ！
(うさぎ) こんな話(はなし)はじめて言(い)うたわ！ さあ、「百聞(ひやくぶん)は一見(いっけん)にしかず」や。極上(ごくじょう)の作品鑑賞(さくひんかんしょう)にレッツ・いこー。

赤い垂直線(あかいすいちょくせん)
中央を切る赤い水平線(ちゆうおうをきるあかいすいへいせん)
球・球・球(きゅう・きゅう・きゅう)
大きい球・中位の球・小なる球(おおきいきゅう・ちゆうゐらいきゅう・しょうなるきゅう)
黒い球・黒い球・黒い球(くろいきゅう・くろいきゅう・くろいきゅう)
リボンをつけた靴(りぼんをつけたくつ)

(うさぎ) うさぎの話(はなし)、コロコロかわるで、聞(き)いたのがたいへんやわ。
(うさぎ) 「コロコロかわる」といつたら古賀(こが)さんが、このひとは絵(え)だけやなしに詩(し)も書(か)いたとるけど、やっぱりコロコロかわるで。ひとつ紹介(しょうかい)しようかい)するで。

(きつね) うさぎの話(はなし)、コロコロかわるで、聞(き)いたのがたいへんやわ。
(うさぎ) 「コロコロかわる」といつたら古賀(こが)さんが、このひとは絵(え)だけやなしに詩(し)も書(か)いたとるけど、やっぱりコロコロかわるで。ひとつ紹介(しょうかい)しようかい)するで。

(うさぎ) 白(しろ)とか赤(あか)とか黒(くろ)とか、「色(いろ)」でぜんぶをくくっているところが画家(がが)としてのセンス(センス)を感(かん)じさせるところやな。くつのおとに花粉(かふん)なんかがいきなりでてくると、びっくりするけど新鮮(しんせん)な感(かん)じするやろ。
(きつね) ほんとやなあ。古賀(こが)さんの絵(え)もバラバラのようや、まとまってるやうや、刺激的(しげきてき)やなあ。
(うさぎ) ちがうもんをくくつけて新(あらた)あたらしいものをつくるんは、お笑(わら)いの基本(きほん)でもあるでえ。



(うさぎ) 蝶(ちょう)の花(はな)粉(こな) 紫(むらさき)の花(はな)粉(こな)、花(はな)粉(こな)
詩(し)画(が)集(しゅう)「古賀(こが)春(はる)江(え)」 昭(しやう)和(わ)9(ねん)年(ねん)より

(きつね) よくわからんけど、線(せん)とか靴(くつ)とか花粉(かふん)とかコロコロかわって登場(とうじょう)しとるわ。なんかバラバラみたいやけど・
(うさぎ) 白(しろ)とか赤(あか)とか黒(くろ)とか、「色(いろ)」でぜんぶをくくっているところが画家(がが)としてのセンス(センス)を感(かん)じさせるところやな。くつのおとに花粉(かふん)なんかがいきなりでてくると、びっくりするけど新鮮(しんせん)な感(かん)じするやろ。
(きつね) ほんとやなあ。古賀(こが)さんの絵(え)もバラバラのようや、まとまってるやうや、刺激的(しげきてき)やなあ。
(うさぎ) ちがうもんをくくつけて新(あらた)あたらしいものをつくるんは、お笑(わら)いの基本(きほん)でもあるでえ。

美術館抄(びじゅつかんしょう)
「むかしむかし、あるところ」
「……」ではじまる昔話(むかしはなし)の世界(せかい)。幼(おきな)頃(ころ)は心地(こころ)よく聞(き)くことができた。しかし、いつのころからか「むかしむかし」正確(せいさく)せいやくにはいつなんや？ ありの村(むら)か？ といったぐあいに、声(こゑ)に出(だ)して質問(しつもん)すると叩(たた)かれるので心(こころ)の中でそつとこむようになった。こんな子どもは明るい性格(せいかく)なら漫才師(まんさいし)になれるだろうが、そうでない子は美術史家(びじゅつしか)にしかなれない。▼芸術家(げいじゆつか)は、あいまいなことがらをとて大切(たいせつ)にする。「細(こま)かいことなど、どうでもいいじゃないか」といった、いかげんな態度(たいど)ではなく、「むかしむかし」というあいまいな世界(せかい)に無限(むげん)の可能性(かんのうせい)を見出(みいだ)せる人(ひと)たちだ。それに対(たい)し、多くの美術史家(びじゅつしか)は、史実(しじつ)を厳密(げんみつ)に追求(ついせう)することに心血(しんけつ)を注(そそ)ぎがち。ただ、一部(いちぶ)のすぐれた美術史家(びじゅつしか)は、厳密(げんみつ)な史実(しじつ)のむこうに無限(むげん)の可能性(かんのうせい)があることを知(し)っていて、しかも芸術(げいじゆつ)のあいまいさも楽(たの)しんでるからすういな。これはいつた何(なに)はなし？

(うさぎ) うさぎの話(はなし)、コロコロかわるで、聞(き)いたのがたいへんやわ。
(うさぎ) 「コロコロかわる」といつたら古賀(こが)さんが、このひとは絵(え)だけやなしに詩(し)も書(か)いたとるけど、やっぱりコロコロかわるで。ひとつ紹介(しょうかい)しようかい)するで。

(きつね) うさぎの話(はなし)、コロコロかわるで、聞(き)いたのがたいへんやわ。
(うさぎ) 「コロコロかわる」といつたら古賀(こが)さんが、このひとは絵(え)だけやなしに詩(し)も書(か)いたとるけど、やっぱりコロコロかわるで。ひとつ紹介(しょうかい)しようかい)するで。